



公益財団法人吹田市文化振興事業団 2016年度 環境活動レポート

※対象期間

(2016年4月1日～2017年3月31日)



吹田市文化会館

発行 2017年4月10日

□理事長ごあいさつ

今日、二酸化炭素やフロンガスなどによる地球温暖化やオゾン層の破壊が進み、また、ダイオキシンや環境ホルモンなどによる自然や生態系への様々な影響が顕在化するなど地球規模で様々な環境問題が発生しています。

こうした問題は、単に自然破壊や健康被害をもたらすばかりでなく、将来の世代にもその影響を及ぼすことが懸念され、問題解決に向けた緊急の対応が求められています。

これらの環境問題は、これまでの「大量生産」「大量消費」「大量廃棄」という生活スタイルや経済活動によりもたらされたものであると言えるでしょう。

問題の解決のためには、こうした社会システムを根本から見直し、自然環境との共生を目指したライフスタイルを確立し、環境への負荷が少ない循環型社会へ転換していくことが必要です。

このような認識のもとに、当事業団が、率先して地球環境への負荷をできるだけ軽減させる行動に取り組んでいきます。また、地域との環境コミュニケーションを図り、地域住民や会館利用者の皆様の、地球環境への負荷の軽減に向けた自主的な取り組みを促すためのモデルともなるために行動を進めて、環境にやさしい会館を目指してまいります。

◆環境方針

当事業団は地域内の各事業所と連携し、時代の要請である二酸化炭素、エネルギーコスト等の削減を実施し、地域への貢献を一層明確にするものです。

環境保全が財団経営の重要課題であることを踏まえ、環境経営システムを構築・運用し、自主的・積極的に環境保全活動に取り組めます。

環境負荷の低減のため、行動指針を次のように定めます。

<環境保全への行動指針>

1. 環境関連法規制や当事業団が約束したことを遵守します。
2. 以下について具体的な環境目標を定め、実施計画を立て、継続的改善に努めます。
 - ① 脱地球温暖化社会のための省エネルギー（含む節水）
 - ② 循環型社会のための省資源、廃棄物の削減
 - ③ 事務用品のグリーン購入
 - ④ 環境啓発イベントの推進
3. 事業団職員及び会館従事員にこの環境方針を周知します。

制定日 2006年11月1日

改訂日 2015年 6月1日

理事長 田口 省一

I 登録事業所の概要

1. 事業者名及び代表者名

事業所名 公益財団法人吹田市文化振興事業団（吹田市文化会館 **メイシアター**）

代表者名 理事長 田口 省一

2. 所在地

大阪府吹田市泉町2丁目29番1号

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 古矢 直樹（常務理事・事務局長・事業課長事務取扱）

環境事務局責任者 藤山 幸治（総務課主査〈事業担当〉）

連絡先 TEL：（06）6380-2221

4. 事業内容（認証・登録の範囲）

文化会館の管理・運営

5. 事業の規模

(1) 基本財産 200,000（千円）

(2) 職員数（臨時雇用員を含む） 22（名）

(3) 敷地面積 10,229.24（㎡）

(4) 総事業費（平成28年度決算額） 448,048（千円）

(5) ホール客席数 ・大ホール 1,397（席）

・中ホール 492～622（席）

・小ホール 156（席）

(6) 大、中、小ホール平均利用率（平成28年度） 92.3（%）

(7) 文化事業実績（平成28年度） 86事業261公演

6. 事業年度 4月～翌年3月

II 環境理念

公益財団法人吹田市文化振興事業団の行動指針と経営理念

(1) 行動指針

公益財団法人吹田市文化振興事業団は、吹田市文化会館の効率的な管理運営を行い、あわせて芸術性の高い自主文化事業を行うことによって、市民の文化活動の振興を図り、個性豊かな地域文化の創造に寄与することを目的として設立され、現在まで市民の活発なご利用と、意欲的な自主文化事業展開により、全国的にもホール運営のモデルケースとして評価が高く、吹田市の文化施策、文化振興の拠点施設となっています。

(2) 経営理念

吹田市文化会館の管理・運営を指定管理者として吹田市より受任して行っております。施設管理事業につきましては、市民よりお預かりする公の施設として、吹田市文化会館条例、同施行規則、協定書等を遵守し、利用者の公平使用・適正使用を図ります。また利用者が一度限りのステージパフォーマンスを最善の状態を実施するための機器メンテナンス、舞台技術指導、各種来館者サービス及び安全管理、個人情報保護には最大限の努力を傾注いたしております。

Ⅲ 環境目標とその実績

(1) 主な環境負荷の実績

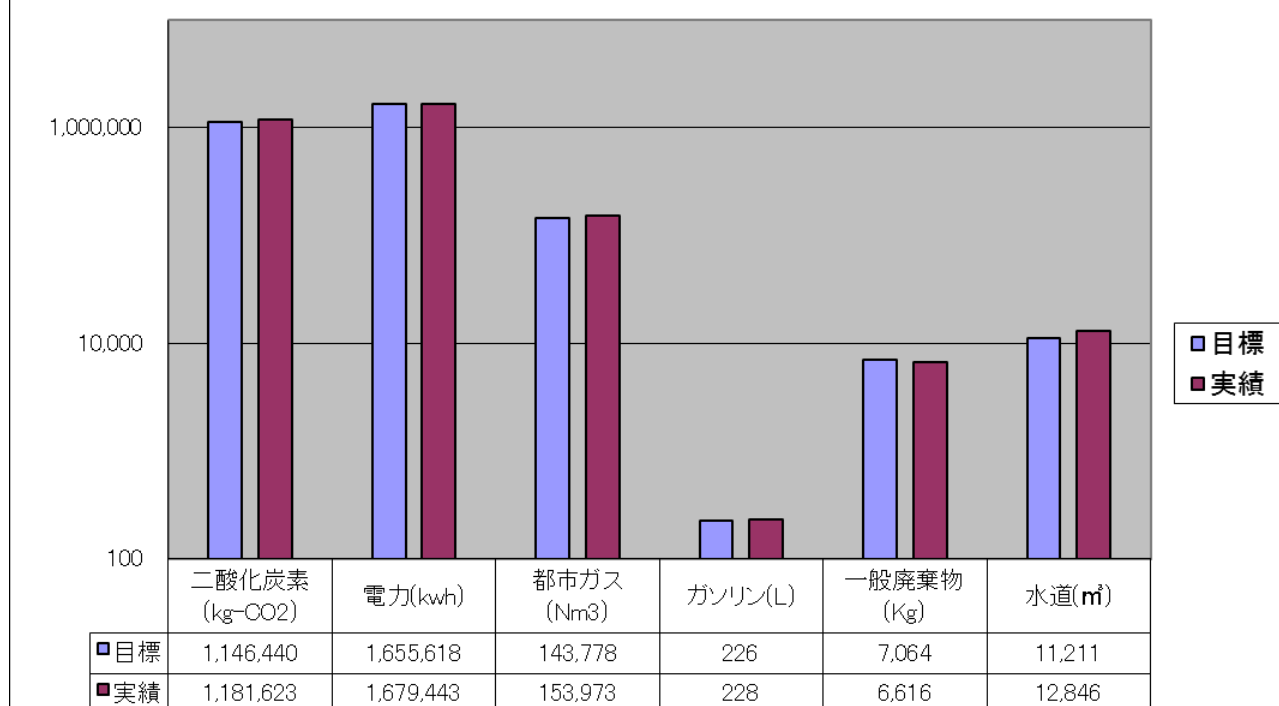
項目	単位	2014年度	2015年度 (基準年度)	2016年度	備考
二酸化炭素 排出量	kg-CO2/年	1,112,353	1,158,020	1,181,623	排出係数(2015年度) (0.509kg-CO2/kWh)
廃棄物排出量	Kg/年	7,780	7,135	6,616	産業廃棄物はない
総排水量	m ³ /年	11,827	11,424	12,946	(再水 100 m ³ を含む)

(2) 環境目標及び実績(2017年3月現在)

二酸化炭素排出量、廃棄物排出量(生ごみを除く)及び水資源投入量を、2015年度の数値を基準として毎年1%ずつ低減を目指し(ただし、2017年度は除く。)2018年度は2%の低減を設定する。

項目		年度		2015年度	2016年度		2017年度	2018年度
		(基準 年度)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)		
電力の削減	使用量 (kWh)	1,672,341	1,655,618 (△1%)	1,679,443	—	1,638,894 (△2%)		
都市ガスの 削減	使用量 (Nm ³)	145,230	143,778 (△1%)	153,973	—	142,325 (△2%)		
ガソリンの 削減	使用量 (ℓ)	228	226 (△1%)	228	223 (△2%)	221 (△3%)		
(参考)目標設定項目の 二酸化炭素排出量(kg-CO2)		1,158,020	1,146,440 (△1%)	1,181,623	—	1,134,860 (△2%)		
一般廃棄物 の削減	総量 (Kg/年)	7,135	7,064 (△1%)	6,616	—	6,992 (△2%)		
節水 (雨水を除く)	総量 (m ³ /年)	11,324	11,211 (△1%)	12,846	—	11,098 (△2%)		
グリーン 購入の推進	対象商品/ 事務用品 (購入額)(円)	1,687,559	1,704,435 (+1%)	1,619,657	—	1,721,310 (+2%)		
環境啓発 イベントの 推進	事業数 公演数	6事業 6公演	6事業 6公演	4事業 4公演	—	4事業 4公演		

環境目標とその実績(平成27年4月～平成28年3月)



IV 環境活動の取り組み計画と評価

2016年4月から2017年3月までの目標と実績について集計し、その評価を行った。

取り組み計画	達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素の削減 ・使用しない室の消灯徹底 ・クールビズ・ウォームビズ運動 ・冷房28℃ 暖房20℃	目標：1,146,440 (kg-CO2) (2015年度比△1%) 実績：1,181,623 (kg-CO2) 率：103.1% (実績/目標)	目標未達成 × 次年度は大規模改修に伴う全館休館のため、非定常時となる。
電力の削減 ・使用しない室の消灯徹底 ・クールビズ・ウォームビズ運動 ・冷房28℃ 暖房20℃	目標：1,655,618 (kwh) (2015年度比△1%) 実績：1,679,443 (kwh) 率：101.4% (実績/目標)	目標未達成 × 次年度は大規模改修に伴う全館休館のため、非定常時となる。
都市ガスの削減 ・空調機のオン・オフの徹底 ・クールビズ・ウォームビズ運動 ・冷房28℃ 暖房20℃	目標：143,778 (Nm3) (2015年度比△1%) 実績：153,973 (Nm3) 率：107.1% (実績/目標)	目標未達成 × 次年度は大規模改修に伴う全館休館のため、非定常時となる。
ガソリンの削減 ・アイドリングストップ運動の推進 ・急発進、急停止の防止運動の推進 ・使用時の燃費の向上	目標：226 (L) (2015年度比△1%) 実績：228 (L) 率：100.9% (実績/目標)	目標未達成 × 来年度は館外のアウトリーチ事業等の増加のため、公用車の利用が頻繁になるとと思われる。今後も、燃費の向上を目指したい。

一般廃棄物の削減 ・紙類分別による古紙のリサイクル化 ・両面コピーの推進 ・来館者のごみの持ち帰りを徹底する	目標：7,064(kg) (2015年度比△1%) 実績：6,616(kg) 率：93.7% (実績/目標)	目標達成 ○ 次年度も、できるだけ、資料のペーパーレス化及びごみの持ち帰りを周知徹底する。
節水 ・節水呼びかけ ・節水コマ取り付け ・自動散水栓取り付け ・一部トイレに音姫の設置 ・館内トイレの手洗いを自動水栓	目標：11,211(m ³) (2015年度比△1%) 実績：12,946(m ³) 率：114.6% (実績/目標)	目標未達成 × 次年度は大規模改修に伴う全館休館のため、非定常時となる。
グリーン購入の推進 ・グリーン商品(事務用品等)の購入の推進	目標：1,704,435円 (2015年度比+1%) 実績：1,619,657円 率：95.0% (実績/目標)	目標未達成 × 次年度は大規模改修に伴う全館休館のため、非定常時となる。 次年度以降も一層のグリーン商品購入に取組む。
環境啓発のイベント ・環境に関する自主事業の選定を行い、1事業年度に6事業6公演の実施を目標とする。	目標：6事業6公演 実績：4事業4公演	目標未達成 × 次年度は大規模改修に伴う全館休館のため、非定常時となる。
総括 ・二酸化炭素、電力、都市ガス、水使用量及びガソリンは目標未達成のため、更なる努力が必要と思われる。 ・一般廃棄物は目標を達成した。 ・グリーン購入は次年度以降も積極的に推進したい。 ・環境啓発イベントは目標未達成。再来年度以降は積極的に実施していきたい。		

V 環境活動の内容

ホールの来館者へのサービス品質を落とすことなく、従来より環境活動に取り組んでまいりましたが、2006年11月よりエコアクション21に取り組むことにより、さらに環境活動を強化しています。

1. 従来より取り組んでいること(太字は重点項目)

(1) 省エネルギーの推進

- ① **こまめに各室の無駄な照明は点けないように気をつけている。**
- ② **空調を必要な区域・時間に限定して行っている。**
- ③ ソーラー給湯システムにより太陽エネルギーを給湯に利用している。
- ④ トイレに節水コマ(適量の水を流す機能を持つコマ)を設置している。
- ⑤ 2階正面玄関照明をタイマー設置により昼間消灯。
- ⑥ 加湿器の制御配線を変更することにより、空調機の作動有無に関わらず加湿器が運転されていたが、空調機の運転と連動することにより省電力化と節水を図っている。
- ⑦ 高効率蛍光灯、インバーター照明(高周波の電流を用いることにより高い効率を得る蛍光灯)等、照明機器の省エネルギー化を進めている。
- ⑧ ホール客席内の足元灯を直流回路から交流回路への移行することにより、節電とバッテリーの寿命延命を図る。
- ⑨ ロビー階段やモニュメントの照明スポットに調光器を設置することにより電球の長寿命化による経済効果を図っている。

- ⑩ 吸収式冷温水発生機の冷水出口温度を1度高くして、機器効率を図っている。
- ⑪ 空調の適温化（冷房 28 度程度、暖房 20 度程度）を徹底している。
- ⑫ 屋外消防用水に雨水を利用している。
- ⑬ 冷却水温度を 25 度～32 度の範囲で管理する。

(2) 省資源・リサイクルの推進(太字は重点項目)

- ① 封筒等の再利用。
- ② 使用済用紙の裏紙の利用により、両面コピーの徹底。
- ③ コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収とリサイクルを進めている。
- ④ 紙、金属缶、ガラスびん、プラスチック、電池等について、分別回収ボックスの適正配置等により、ごみの分別を徹底している。
- ⑤ 名刺、パンフレットなどの印刷用紙に再生紙を使用。

(3) 環境啓発イベントの実施(太字は重点項目)

- ① 「今森光彦 写真展～昆虫 4 億年の旅～」(H28. 6. 28～7. 5)の実施。
- ② 「<環境エココンサート>マリオネットコンサート
～自然と大地を恵むポルトガルギターとマンダリンの旋律～」(H28. 7. 3)の実施。
- ③ 「CO2 削減／ライトダウンジャパン 2016」(H28. 6. 21 及び 7. 7) (環境省主催) の参加。
- ④ 「すいた環境教育フェスタ」(H29. 2. 4) (市主催イベント) への協力。

2. エコアクション 21 導入にあたって新たに始めたこと (太字は重点項目)

- ① コピー用紙にリサイクル製品などのグリーン商品を使用。
(2006 年 11 月より実施し継続中)
- ② 環境方針や環境活動を全職員に周知や環境教育を実施。
- ③ グリーン商品及びエコマーク商品を優先的に購入。
- ④ 冷却塔補給水管に量水器を設置し、給水量を測定することにより、下水道使用料の抑制を図る。
- ⑤ 館内女性用トイレの一部(32 箇所)に擬音装置(音姫)を設置することにより、水使用量の抑制を図る。
- ⑥ 環境活動レポートをメイシアターホームページで紹介。
- ⑦ 休館日及び夜間閉館時のホール誘導灯の消灯により、電気使用量の削減を図る。
- ⑧ 公用車のエコドライブの推進。
- ⑨ 公用車保有 2 台を 1 台に減らした。
- ⑩ 空調用フィルター及び自動制御機器の整備を図る。
- ⑪ 屋外散水栓を自動タイマーから手動に切り替え、気温、天候に応じて散水。
- ⑫ 環境啓発イベントの実施。
- ⑬ 吸収式冷温水発生機、空調機器等からの冷媒漏えい管理及び点検。

3. 今後、中長期的に行うこと (太字は重点項目)

- ① 納入場所にアイドリングストップの看板の設置。
- ② パソコン閲覧等を利用し、ペーパーレスに取り組む。
- ③ 使用済用紙の裏面の利用、両面印刷をさらに徹底する。
- ④ 委託業者にもエコアクション 21 を推進していく。
- ⑤ 空調の適温化（冷房 28 度程度、暖房 20 度程度）を徹底する。
- ⑥ 環境啓発イベントを積極的に実施する。

- ⑦ 空調熱源設備をガス吸収式冷温水発生機からフレックスモジュールチラーに変更。
- ⑧ 館内照明電球（避難誘導灯を含む）を白熱灯からLED電球に順次交換する。
- ⑨ 館内トイレの手洗いを順次、自動水栓にする。

VI 2016年度目標に対する環境活動の取組結果(2016年度実績)の評価

- ① 電気使用量については、2016年度目標に対して1.4%増加している。
- ② 都市ガス使用量については、2016年度目標に対して7.1%増加している。
- ③ ガソリンなど燃料使用量については、2016年度目標に対して0.9%増加している。
- ④ 二酸化炭素排出量については、電気、都市ガス、燃料等の3項目について、2016年度目標に対して3.1%増加している。
- ⑤ 水使用量については、2016年度目標に対して14.6%増加している。
- ⑥ グリーン購入については、文具などのグリーン商品の購入額が、2016年度目標に対して5.0%減少している。
- ⑦ ごみの排出量については、2016年度目標に対して6.3%減少している。
- ⑧ 環境啓発イベントについては2016年度目標の6事業6公演に対して、4事業4公演を実施しており、目標は未達成。

VII 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規制等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される施設等
消防法	スプリンクラー設備、煙感知器、消火器、自家発電設備用軽油タンクなど
電気事業法	受変電設備
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物収集運搬業務
建築基準法	一般用、荷物用エレベーター安全機器点検
大気汚染防止法	吸収式冷温水発生機
騒音・振動規制法	送風機、クーリングタワー、排煙送風機等の騒音または振動防止の方法を届出。
建築物における衛生的環境の確保に関する法律 (ビル管理法)	空気環境測定業務
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	パッケージエアコン

2. 遵守事項のチェック項目

(1) 消防法

- ① 2015年12月より特例認定制度に伴う「防火優良認定証」(SAFETYマーク)の更新認定(3年間)
- ② 毎年1月に消火器などの消防用設備等(特殊消防用設備等)点検を実施。ただし、ハロンガス消防設備は消防に際して特例的に認められている。

- ③ 自家発電用軽油のタンク保管(少量危険物)
 - (2) 電気事業法
受変電設備を年2回機器点検。
 - (3) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
(吹田市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例)
業者が一般廃棄物収集運搬業許可を届出
(可燃物、不燃物<6種>、大型ごみの処理)
 - (4) 建築基準法
毎月2回、一般用、荷物用エレベーターの機器点検を実施。
 - (5) 大気汚染防止法
吸収式冷温水発生機の年に2回のばい煙測定。
 - (6) 騒音・振動規制法
送風機、クーリングタワー、排煙送風機等の騒音または振動防止の方法を届出。
 - (7) 建築物における衛生的環境の確保に関する法律(ビル管理法)
館内における2ヶ月に1回の空気環境測定
 - (8) フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律
(フロン排出抑制法)
館内パッケージエアコンからの冷媒漏えい管理及び点検。
(3ヶ月に1回の簡易検査・3年に1回の定期検査)
3. 環境関連法規制等の遵守状況の定期評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。
また、過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。

VIII 代表者による評価と見直し

1. 2016年度環境負荷の問題点

- (1) 一般廃棄物は前年度比1%削減の目標を達成した。
二酸化炭素、電気、ガソリン、都市ガス使用量及び水使用量が昨年より多く目標が達成されていない。熱源機器であるガス吸収式冷温水発生機及びパッケージエアコンの経年劣化により、性能、機器効率が低下してロスが多いと思われる。
- (2) 事務所の暖房機器として灯油ストーブを使用したため、環境負荷が増加した。
- (3) ホール等利用者へのごみの持ち帰りは一定の効果が出ている。
- (4) 環境啓発イベントの目標は未達成。

2. 今後の課題

2015年4月施行のフロン排出抑制法により、冷媒漏えい管理及び点検を実施・遵守する。

3. 今後の目標

2017年度大規模改修実施による熱源機器の更新や照明機器のLED化で改修後は省エネが大いに期待できる。2017年度は改修による休館のため非定常時とし、2018年度の目標設定は2015年度実績を基準とする。